国際化学肥料ニュース（2023 年 5 月）

肥料業界の 2023 年 5 月動態

＊　中国は国内りん鉱石の価格高騰を抑えるため、初めてエジプトから計 3 船 13.5 万トン高品質のりん鉱石粉を輸入した。輸入を担当しているのは中国国営中国化学グループ傘下の中化化学肥料社で、最初の 1 船 4.5 万トンは 5 月初めに江蘇省鎮江港に到着した。その影響を受け、中国国内りん鉱石価格が 3 年ぶりに小幅に下落した。

＊　5 月 1 日から中国税関は化学肥料の輸出「法定検査」に一定の修正を加えた。税関の内部ソースによれば、大きく変化したのは次の 4 点である。① 塩化加里と硫酸加里などの加里系肥料に対して、引き続き厳しく制限する。② りん酸肥料について、国内 61 カ所のりん酸肥料工場に輸出数量割当制を実施して、割当数量を超えない場合は 7～10 日以内に輸出を許可する。また、この 61 ヵ所工場以外のりん酸肥料製品の輸出を認めない。③ 尿素などの化学肥料の「法定検査」期間を 10～30 日以内に抑え、検査項目、検査手順も明文化する。④ 国営の中農グループ、中国化学グループと中国海洋石油グループの 3 社に対して「法定検査」を外して、輸出港での通常検査を行う。

＊　5 月 5 日、中国税関は「輸入輸出肥料の検査規定」を制定したと発表し、2023 年 12 月 1 日から輸入輸出肥料をこの検査規定に沿って実施する。すなわち、2024 年以降も「法定検査」を継続する可能性がほぼ確実となった。

　2021 年 10 月 15 日、中国税関は 29 項目の化学肥料について輸出時に強制的に税関検査が必要とするいわゆる「法定検査」を実施して、化学肥料の輸出を厳しく制限している。「法定検査」期間が最初は 30 日であったが、その後 60 日、90 日に延長したうえ、各地の税関により検査内容の合否を通知せず、むやみに延ばすなどの事例が頻発して、一部の肥料については輸出「法定検査」の申請を受け付けない。それにより、中国国内肥料メーカーと輸出商社、外国輸入業者から大きな不満を招いた。中国税関は「法定検査」の内容と手順を統一するために「輸入輸出肥料の検査規定」を制定した。

＊　5 月第 1 週（1～7 日）の国際尿素市場は地域によってその動きが異なる。東半球では生産ラインの点検と需要がやや旺盛で、価格が安定している。インドネシア産尿素の販売入札には 5 月下旬出港の大粒尿素の FOB 価格が 330 ドル／トンを維持して、ブルネイ産尿素が FOB340 ドル／トンで販売されている。また、数社のバイヤーが 5 月～6 月上旬出港の尿素を求めている情報がある。一方、西半球ではアメリカの尿素価格が 3 週間ぶりに下落して、5 月下旬出港の尿素 FOB Nola が 315 ドル／トンとなり、25 ドルも下落した。

＊　5 月第 2 週（8～14 日）の尿素国際相場は全面に下落に転じた。アメリカと南米の需要が過ぎ、インドが国内生産量の増加で輸入への依存を大幅に下げるなどで、大口買手が現れず、ロシア産尿素は FOB255～270 ドル／トン、中東産尿素が FOB315～320 ドル／トンに下落したほか、CFR 南米ブラジルとメキシコ価格も 305～320 ドル／トンに下がって、今年の最安値を更新した。

＊　中国税関の速報によれば、2023 年 4 月の中国化学肥料輸出量が前年同期より 2.9%増、前月より 10.8%減の 179 万トン。その内訳は硫安 85 万トン、尿素 8 万トン、DAP33 万トン、MAP14 万トン。硫安と尿素が大幅に減少した。

一方、2023 年 4 月の中国化学肥料輸入量が前年同期より 27.9%増、前月より 2.8%の 110 万トン。その内訳は塩化加里 94 万トン、NPK 化成肥料 10 万トン。

＊　5 月 31 日、インド RCF 社は新しい尿素国際入札を発表した。6 月 12 日締め切り、7 月 17 日まで船積みという条件である。予定購入数量 80 万トン。これは今年第 2 回の尿素国際入札である。今まで、インドは世界最大の尿素輸入国として、6 月までに 3～4 回の国際入札を行ってきたが、2021～22 年に数カ所の新規生産ラインの完成と閉鎖した工場の再開など、国内尿素生産能力が 2400 万トンを超え、輸入尿素への依存度が大幅に下がった。今度の入札結果によって、尿素国際相場の値下がりがさらに加速されると予測される。

＊　5 月 29 日、ロシア総理ミハイル・ミシュスチン氏はロシア産化学肥料輸出割当制度の期限を 11 月 30 日までに延長する命令に署名した。2023 年 6 月 1 日～11 月 30 日までに輸出割当数量が 1630 万トン、2021 年同期の輸出数量とほぼ同じである。ロシアの化学肥料輸出数量割当制度は 2021 年 12 月 1 日から実行され、最初は 2022 年 5 月 31 日までとされていたが、2 回の延長を経て、2023 年 5 月 31 日までに延長された。

大手各社の営業業績

＊　加里価格の高止まりにより、中国 4 大加里メーカーが 2023 年第 1 四半期の業績を大きく伸ばした。最大手の塩湖社は売上高が 47.06 億人民元、純利益 22.25 億人民元、二番手の蔵格鉱業社は売上高 13.74 億人民元、純利益 9.21 億人民元、ラオスに加里鉱山を持ち、塩化加里を生産輸出しているアジア加里社は売上高 8.55 億人民元、純利益 3.36 億人民元、もう 1 社の東方鉄塔社は売上高 7.87 億人民元、純利益 1.69 億人民元。特に中国国内塩化加里を生産する塩湖社と蔵格鉱業社は純利益率が 40%を超えた。

＊　中東アブダビに本社を置く世界最大の尿素トレーダーFertiglobe 社は 2023 年第 1 四半期の業績を発表した。国際尿素相場の急落により収益が圧迫される。第 1 四半期の自社生産アンモニアと尿素の販売量がそれぞれ 23.6 万トンと 113 万トンで、前年同期より約 10%増加したが、純利益が 3.61 億ドルから 1.35 ドルになり急減した。また、サードパーティの取引量は、2022 年同期の 27.6 万トンから 16.5 万トンと約 40%減少した。

＊　アメリカの Mosaic 社は 2023 年第 1 四半期の業績を発表した。売上高が 8%減の 36 億ドル、EBITDA 7 億 7700 万ドル、純利益 4 億 3500 万ドル。各部門の状況は塩化加里販売量が 5%増の 190 万トン、りん安（DAP+MAP）販売量が 6%増の 180 万トン、化成肥料販売量が 16%増の 210 万トン。ただし、価格下落の原因で、売上高と純利益が減少した。

＊　ドイツの K+S 社は 2023 年第 1 四半期の業績を発表した。売上高が前年同期と同じ 12 億ユーロ、EBITDA が 13.4%減の 4 億 5400 万ユーロ。主力の加里肥料販売数量が 3%減の 173 万トン。

＊　イスラエルの ICL 社は 2023 年第 1 四半期の業績を発表した。塩化加里販売価格の大幅下落により、連結売上高が 28.3%減の 20 億 980 万ドル、EBITDA が 39.1%減の 6 億 1000 万ドル、純利益が 48.5%減の 4 億 6500 万ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

＊　オーストラリアの Incitec Pivot Fertilisers 社は西オーストラリア州の Pilbara region に尿素プラントの建設を開始した。このプロジェクトに約 4 億ドルを投資して、地元産の天然ガスを原料にして、年間 200 万トン尿素を生産するプラントを建設するものである。2027 年完成し、稼働する計画である。

＊　カナダの Western Resources 社はサスカチュワン州 Regina に開発中の Milestone 加里プロジェクトの第 1 期精製プラントの試運転を開始したと発表した。当該プロジェクトは 2015 年中国資本が参加して、溶解採鉱法を利用して地下から加里鉱石を溶解してから抽出し、地上で再結晶させる。完成すれば年間塩化加里生産能力 280 万トンの大型加里鉱山となる。

＊　ノルウェーの Yara 社はイギリスのヨークシャーにある既存の拠点に特殊作物栄養製品および生物刺激剤の生産工場を建設すると発表した。2025 年に完成し、稼働される予定である。完成すれば、世界最大規模の特殊作物栄養製品となる。

＊　中国の開元社はラオスに 24 億人民元（約 3.5 億ドル）を投資した塩化加里プロジェクトの第 2 期建設工事が完了し、正式に稼働し始めると発表した。すでに 2014 年に完成した第 1 期 50 万トンに加え、年間 100 万トンの塩化加里を生産することができる。

＊　スイスのグリーン窒素肥料メーカーAtlas Agro 社はアメリカワシントン州 Richland にゼロ炭素肥料プラント Pacific Green Fertilizer（PGF）の建設に着手し、スペインの Tecnicas Reunidas SA と設備と施工の契約を締結したと発表した。この工場は、Atlas Agro 社が世界中の複数の地域に建設を計画している一連の工場の最初のものである。

　この窒素肥料プラントは、年間 65 万トン硝酸アンモニウム・カルシウムを生産する能力があり、アンモニア、硝酸、硝酸アンモニウム、硝酸アンモニウム・カルシウム、硝酸カルシウム、電解装置、空気分離という主要な装置で構成される。主要プロセスユニットに独自の技術を使用し、空気、水、ゼロカーボン電力のみを原料として使用する世界初の本格的なゼロカーボン窒素プラントの 1 つとなる。

＊　ブルガリアの Agropolychim 社は 2 億 5000 万ユーロを投資して、ブルガリアに年間硝安、CAN（硝酸アンモニウム・カルシウム）、硝酸カルシウム、UAN（尿素硝安液肥）合計で最大 150 万トンの肥料工場を建設する。2027 年末に完成し、稼働する計画である。

その他

＊　5 月 6 日、ロシア外務省のスポークスマンはロシア副外務大臣と国連貿易開発会議（UNCTAD）の事務局長がロシアの農産物と化学肥料輸出について 5 日に会談を行ったと発表した。ロシア側は農産物と化学肥料の輸出にいまだに妨害があると不満を表明した。国連とトルコの仲介で、ロシアとウクライナは昨年 7 月に黒海の港での農産物輸出について合意を達した。昨年 11 月と今年 3 月に 2 度延長された。5 月 8 日から国連とトルコの仲介でロシアとウクライナが 5 月 18 日に期限切りとなる黒海での農産物輸出協定の延長についてトルコで再度協議を行う。

＊　5 月 16 日、AfDB（アフリカ開発銀行）理事会は 2023 年アフリカ肥料融資メカニズム（AFFM）の融資予算に 1170 万ドルを配分することを承認した。2023 年肥料融資メカニズムは、ロシアのウクライナ侵攻を受けてアフリカに迫り来る食糧危機を回避するために開始され、世界銀行のアフリカ緊急食糧生産の第 2 弾を支援するために実施される。その目的は資金へのアクセスを通じて肥料セクターを強化し、肥料の生産、取引、使用

を改善するための持続可能な政策改革の発展を支援し、小規模農家に対する投入物や技術支援へのアクセスを促進することである。

＊　サウジアラビアのMaaden社は2022年10月にドイツの国際検査機関TÜV Rheinlandの認証を受け、昨年 11 月に韓国にブルーアンモニアの輸出を皮切りに、続々日本、EU, 中国、インドにブルーアンモニアを輸出して、世界最大のブルーアンモニア輸出元となった。サウジアラビアの石油会社サウジアラムコ社もブルーアンモニア事業に進出して、2030 年に年間 1100 万トンブルーアンモニアの生産能力を持ち、主にアジアに輸出する計画を立てた。

＊　ロシア化学肥料生産者協会（RAPU）の責任者 Andrey Furyev はロシアの化学肥料が順調に輸出して、2021年の史上最高レベルに回復されるだろうと述べた。2022年3月、ロシアのウクライナへの侵攻によりロシアが厳しい経済制裁を受けて、化学肥料の輸出も激減した。2023 年の化学肥料生産量（N、P2O5、K2O 換算）が昨年の 2350 万トンから 3800 万トンに回復される見通しとなっている。それに伴い、化学肥料の輸出量も回復される。ただし、2022 年の塩化加里生産量が 32%も減少して 730 万トンしかないので、2023年の輸出可能量が限られ、最盛期の水準に戻るには時間がかかるだろう。